







MotionGalleryのご説明

~Welcome to Crowd funding!! ~

クラウドファンディングの世界 ~共通項を探そう~



さて、突然ですがこの2つの写真に共通するものは何でしょうか!?





クラウドファンディングの世界 ~「パリ**20**区、僕たちのクラス」の事例~



映画「パリ20区、僕たちのクラス」は、日本を取り巻く映画の環境を如実に示した事例として話題になりました。



『パリ20区、僕たちのクラス』(Entre les murs)は、2008年のフランス映画(日本公開は2010年)。フランソワ・ベゴドーが実体験に基づいて2006年に発表した小説『教室へ』を、ローラン・カンテ監督が映画化。ベゴドーも脚本及び主演を勤めている。第61回カンヌ国際映画祭でパルム・ドールを受賞。また、第81回アカデミー賞外国語映画賞にもノミネートした

カンヌでパルム・ドールを受賞し、映画ファンからも上映への強い要望があった映画である にも関わらず、配給権を買う会社が現れず、岩波ホールでの上映迄2年も要した

クラウドファンディングの世界 ~「自然エネルギー」の事例~



自然エネルギーは、今後のエネルギーを考える上で個々人に問われ始めているテーマです。



『自然エネルギー』とは、太陽光、太陽熱、水力、風力、地熱、波力、温度差、バイオマス等の発電を指し、「絶えず資源が補充されて枯渇することのないエネルギー」、「利用する以上の速度で自然に再生するエネルギー」と定義づけられている。安全性や永続性、または地球環境への優しさから普及が望まれているが、電力供給の安定性やコストが高いのではという懸念から、一般的な普及には至っていない

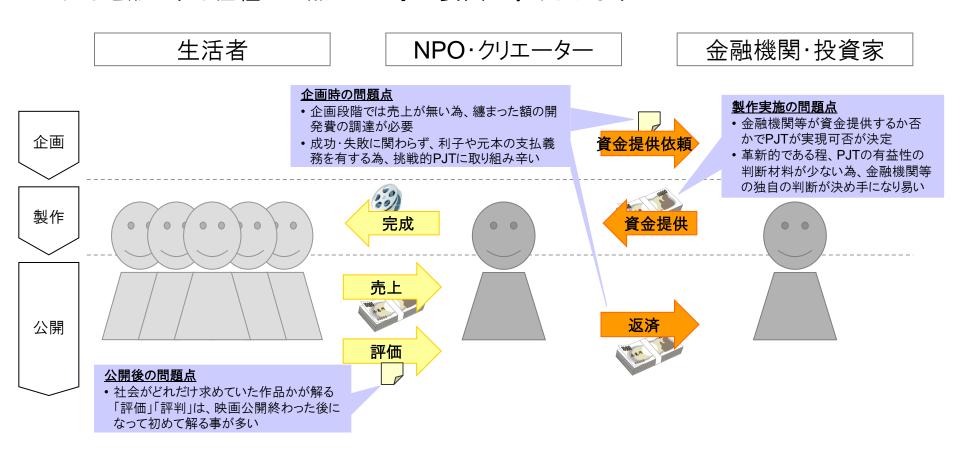
震災後、自然エネルギーへの希求が生活者の中で高まっているにも関わらず、 一般的な普及につながる道筋がまだ見えていない状況

クラウドファンディングの世界

~ 今までの資金調達~



企画段階での金融機関等の判断がその活動の命運を決めている事、そして、それに代わる いいね!を形にする仕組みが無かった事が要因に挙げられます



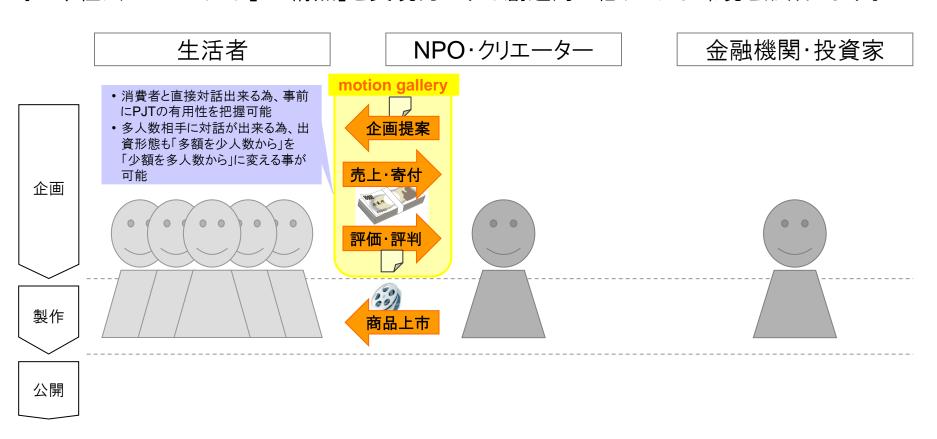
リアルを前提とすると、「多人数」の消費者と「製作前」にコミュニケーションするコストは高い為、「少人数」で「多額の資金提供」を行う金融機関との対話が重視されてしまう。

クラウドファンディングの世界

~これからの資金調達~



生活者が事前にPJTに参加し、企画段階で活動の核となる「お金」「評判」を共有・可視化する事で、社会の「いいね!」と「情熱」を実現力にする創造的で低リスクな環境を形成します。



フラッシュマーケの発達や実名性の担保等が進んだWebでは、「寄付先の透明性の確保」・「寄付のし易さ」を担保した環境で、「多人数」の消費者と「製作前」に直接コミュニケーションする事が可能。

今までの集まった応援の事例紹介



motion galleryは映画等やアート等のクリエィティブ・コンテンツに強いクラウドファンディングサイトとして認知が高まっており、掲載自体がPRに繋がる事例も増えています。

映画プロジェクトの成功事例の一例



[like someone in love]

クリエィティブ系で当時の日本最高額の**560万円**を達成し、カンヌ国際映画祭コンペティションに。本取り組みが日経新聞やR25にも掲載され、クランクイン前に既に大きな話題に。



【トレーナー梅津正彦を支えたい】 南海キャンディーズの山崎静代が、 女子ボクシングに挑戦して以来トレナーとして二人三脚で歩いて来た 梅津さんの闘病と、女子ボクシングの文化を広める為に、160万円が 集まり、応援の輪が広がりました。



[Seesaw]

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭受賞を始め海外映画祭でも称賛された映画の上映プロジェクト。シネマトゥディにも取り上げられ66万円達成。盛り上がりの可視化とPA費獲得によりヒューマントラスト渋谷での上映が実現



【白黒ギツネと光の洞窟】

将来有望視される若手監督の映画制作プロジェクト。有名俳優の出演も含めFBやツイッターで盛り上がり、73万円を獲得し制作されました。制作後、モントリオール世界映画祭フォーカス・オン・ワールドシネマ部門にてノミネートが決定。



【ソノダバンド】

インスト系の人気バンド「ソノダバンド」が、古き良きアナログレコード発盤に取り組んだプロジェクト。1週間で目標金額の2倍となる100万円を超える額を集める



【ハーブ&ドロシー】

インディペンデント映画ながら、大きな共感を呼び大ヒットした前作。その完結編となる本作品の、日本配給費用を、日本最高額の1,435万円を集め、未踏領域だった1,000万円を超える快挙!

メディアからみるmotion gallery



日本経済新聞や週刊ダイヤモンドから、カルチャー誌のCINRAやR25、ソトコト迄、幅広いメディアに取り上げられ、注目度も非常に高まって来ております。

